

問6	ソフトウェアパッケージ導入時の調達先選定 (プロジェクトマネジメント)	(H28 春・FE 午後問 6)
----	----------------------------------------	------------------

- 【解答】
- 〔設問 1〕 aーウ, bーア
- 〔設問 2〕 cーエ, dーイ, eーイ

【解説】

プロジェクトにおけるソフトウェアパッケージ（以下、パッケージ）導入時の調達先選定の問題である。プロジェクトマネージャ（PM）は、パッケージの検討に当たり、候補である 3 種類のパッケージ製品から、評価項目に基づいて評価をする。これは、問題文の表 1 に示されている評価基準に則って、各社の評点を算出していけばよい。

また、パッケージ導入に当たってのリスク分析では、表 2 のリスク評価マトリックスを使って、各リスクに対する各社の対策の優先度を求める。

設問 1、2 とともに、問題の基準値を当てはめて計算し、表を埋めていくことで、解答できる内容である。確実に得点したい問題である。

- 〔設問 1〕
- 空欄 a：M 社の提案内容のうち、概算見積金額の評価基準に対する評点を求める。
「C 社予算上限 5,000 万円に対する見積金額」に示されているように、5,000 万円の 80% は 4,000 万円であり、それより安い 3,800 万円には「80%以下：4」が適応される。設問文に「評価項目における各社の評点は、評価項目ごとの評価基準に重みを乗じて算出」とあるので、4 に重みの 30 を乗じると、 $4 \times 30 = 120$ となる。したがって、(ウ) が入る。
 - 空欄 b：表 1 で総合評価の値が最も高い社を選ぶことになる。M 社は空欄 a の概算見積金額の評点が 120 となるので、総合評価を求めるために評点を全て足し算すると、次のようになる。
 $80 + 20 + 0 + 80 + 120 = 300$ (M 社)
N 社の総合評価を求めるために、網掛けになっているパッケージの機能の適合度と拡張性の評価基準「要求機能数 50 に対する適合数」の評点を求める。N 社の適合数は 32 であり、「60%以上～80%未満：2」が適応される。2 に重みの 20 を乗じると、 $2 \times 20 = 40$ となる。N 社の総合評価は次の値となる。
 $40 + 20 + 120 + 40 + 60 = 280$ (N 社)
したがって、総合評価の値が最も高いのは 360 の L 社であり、(ア) が入る。

〔設問 2〕

表 2 のリスク評価マトリックスを用いて、表 3 の発生確率と影響度から、項番ごとの各社の優先度を計算する。項番 1 について、N 社は 2 (発生確率普通) $\times 3$ (影響度大) $= 6$ から「高い優先度」となり、リスク対策が必要と判断される。

- 空欄 c：項番 1 について、N 社のリスク対策の内容を考える。リスクの内容に、「業務プロセス、運用フローの変更項目が多く、業務設計が遅延する」とある。つまり、業務に関することなので、C 社の業務プロセスや運用フローが分かっている社員が検討に参加しなければ、業務設計は進まなくなってしまう。したがって、「C 社内の有識者社員から成る検討要員を増員する」としている (エ) のリスク対策が入る。
ア、イ、ウ：N 社及び N 社以外のベンダの要員に対しての増員や研修という対策であり、C 社の要員には言及していないため、誤りである。
- 空欄 d：リスク対策を発動する契機になるものを各選択肢の内容から考える。
ア：「解決されずに残っている課題の増加」は、課題もいろいろ考えられ、C 社要員を増員して解決する課題とは言い切れない。
イ：「業務プロセス、運用フローの改訂作業量の増加」は、C 社要員のマンパワーが必要となる。項番 1 のリスク対策発動の契機となる。正しい。
ウ：「業務プロセス、運用フローのレビューでの指摘の増加」も、(イ) に似ているが、レビューでの指摘事項が必ずしも C 社要員の増員で解決する指摘事項とは限らない。
エ：「作り込み機能の増加」は、パッケージベンダの作業が増えることにつながる。
したがって、リスク対策の発動契機となるものは (イ) である。
- 空欄 e：リスク対策費用として盛り込むために、設問の「パッケージ導入に関するリスク分析の状況」に「プロジェクト計画時に、対策が必要なリスク項目ごとに、概算見積費用の 10% を、リスク発生時の対策費用として盛り込むことにしている」とある。N 社の概算見積金額は表 1 から 4,500 万円なので、その 10% は 450 万円となる。したがって、(イ) が入る。

この問題では、設問 2 の最後の段落にあるように、「表 1 の総合評価の値が最も大きいパッケージを採択して会計システムを再構築するプロジェクト計画の策定を進めることにした」。設問 2 では N 社について問われているが、最終的に採択されたのは総合評価の値 (設問 1) が最も高い 360 の L 社のパッケージになる。